

南小弓城跡

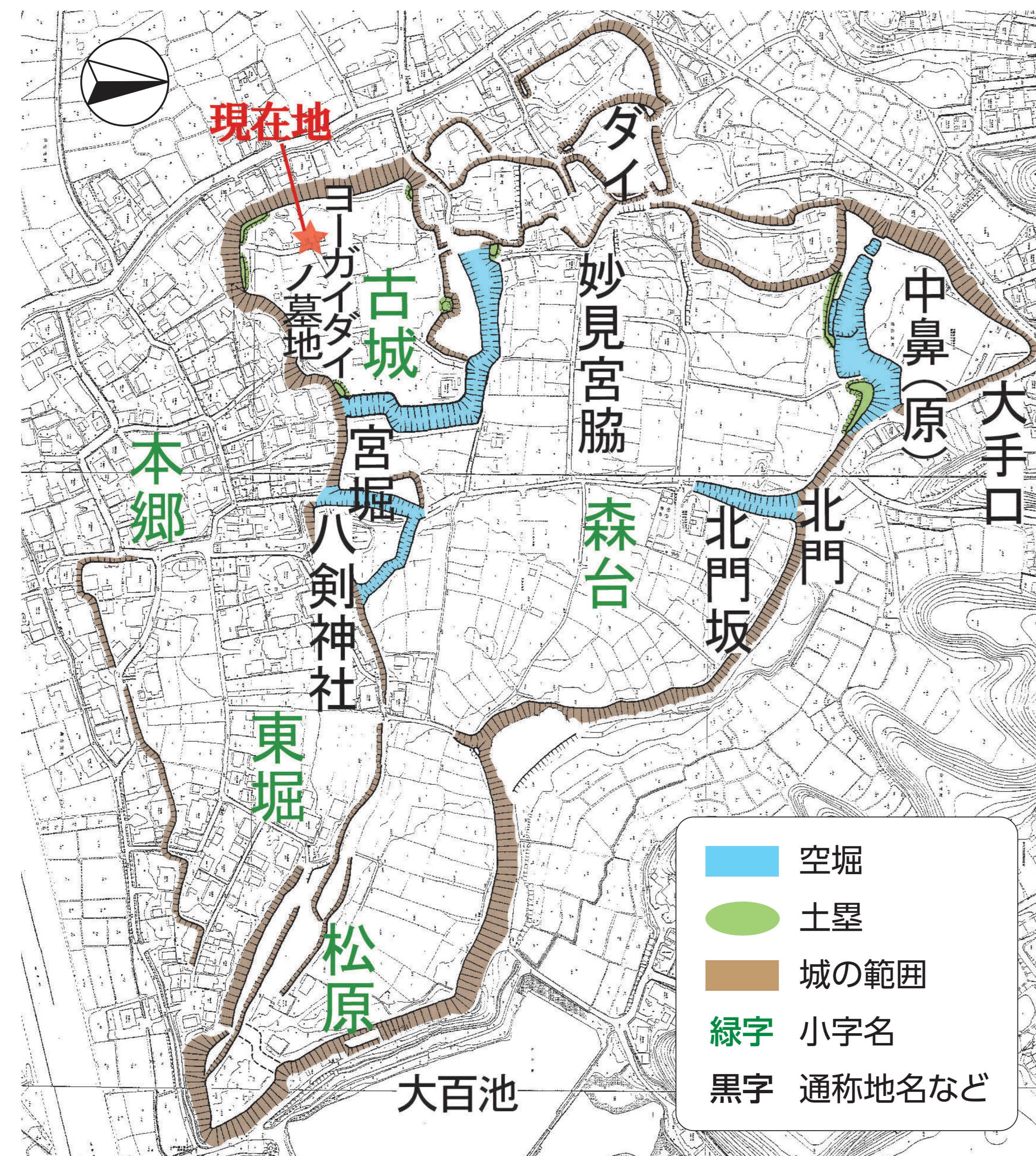
Site of Minami-Oyumi Castle



千葉氏ポータルサイト Foreign Languages



千葉氏家宰・原氏が小弓城を守るために築いた支城



戦国時代、小弓(生実)地域には南北に二つの小弓城が存在しました。これまで、この南小弓城の方が、北の小弓(生実)城(中央区生実町)よりも古くから存在し、小弓公方足利義明の御所もこちらにあったと考えられていました。しかし、発掘調査等により、小弓城は15世紀後半頃から存在しており、義明が拠点としたのも小弓城であったことが判明しました。

南小弓城は発掘調査が行われていないため成立時期は不明ですが、本丸に当たる主郭(「古城」のあたり)の周りにかつて存在していた堀や土塁の形態、中鼻(原)地区にある出入口を守るための施設(馬出状曲輪)の配置などから考えると、16世紀半ば以降に築かれた可能性があります。

戦国時代後期、本佐倉城(酒々井町・佐倉市)に本拠を移した千葉氏に代わって、小弓地域は千葉氏の家宰(重臣筆頭)・原氏が治めていました。しかし、東京湾沿岸の制圧を目指す安房国の里見氏もこの地域への進出を狙っており、激しい戦いが繰り返されました。水陸交通の要衝である小弓地域は千葉氏にとって重要で、なんとしても守りたい領地でした。南小弓城は、小弓城を守るため、上総方面へのおさえとして、この時期に原氏によって築かれたと考えられます。

原氏は、里見氏に対抗するため、同じく里見氏と敵対する小田原の北条氏と結んでいましたが、その結果、千葉氏と並ぶ房総における北条氏側の有力な勢力になっていきました。

結局、里見氏との戦いが終結し、原氏が小弓地域の支配を完全に取り戻すには、天正5年(1577)の北条氏と里見氏の和睦を待たなければなりませんでした。